

論文

幼児はテレビとどのようにつきあっているか

～「NHK 幼児視聴率調査」の結果から～

白石 信子

幼児のテレビの視聴時間は、週平均1日あたり2時間半前後で安定している。視聴内容は、「ドラえもん」「ポケットモンスター」などのアニメ番組と「いないいないばあっ!」「おかあさんといっしょ」をはじめとした教育テレビなどの幼児向け番組がほとんどである。また2歳、3歳といった低年齢ではビデオの利用時間が長い。

一方、幼児の母親は、物心つく前からテレビに出会った、いわば『テレビ世代』である。どちらかという活字よりは映像を好む“テレビっ子”であり、幼児のテレビ、ビデオ利用に対し、昔の母親より寛容である。このような現代の母親のメディア特性を考慮しつつ、親子でテレビを上手に利用するメディア教育が必要である。

キーワード：幼児、テレビ、母親、テレビリテラシー

現代の幼児（2～6歳）が、どのようにテレビやビデオを利用しているかについて、NHKの放送文化研究所が1990年以降実施している「幼児視聴率調査」の結果から、現状を紹介する。

1 テレビ視聴状況

<テレビを見るのは1日2時間>

NHKが昨年6月に実施した調査^{注1}では、2～6歳の幼児のテレビ視聴時間は週平均1日あたり2時間34分で、そのうちNHK57分に対し、民放は1時間37分である（表1）。2歳、3歳といった年齢別にテレビ全体の視聴時間をみると、3歳以上が2時間半かそれ以上であるのに対し、2歳は2時間18分と短い。ただし、ここ3年でみると、年齢による差ほとんどみられない。

曜日別には、平日平均が2時間35分であるのに対し、

土曜日は2時間17分と短めである。逆に同じ週末でも、日曜の視聴時間は2時間44分と長めであった。また、平日については男女や年齢による違いはほとんどみられないが、日曜は男子や4歳以上がテレビをよく見ている。

幼児の視聴時間の長短とかかわりが大きいと思われるのは、母親の視聴時間である。表2のように、母親の視聴時間別に幼児のテレビ視聴時間を再集計したところ、母親の視聴時間が3時間以上と長い場合、幼児のテレビ視聴時間も3時間12分と長いが、母親の視聴時間が2時

表2 母親の視聴時間別に見た幼児の視聴時間 (時間:分)

全体	短	中	長
2:34	1:57	2:25	3:12
N=	206名	166名	243名

短:2時間未満,中:2～3時間,長:3時間以上

表1 局別平均視聴時間(週平均) (時間:分)

	NHK計			民放計			テレビ全局計		
	00	01	02	00	01	02	00	01	02
全体	1:02	1:03	0:57	1:34	1:33	1:37	2:36	2:34	2:34
2歳	1:15	1:15	1:11	1:21	1:25	1:07	2:37	2:40	2:18
3歳	1:06	1:09	1:00	1:21	1:28	1:29	2:29	2:35	2:30
4歳	1:00	0:55	0:53	1:26	1:34	1:52	2:26	2:32	2:44
5・6歳	0:55	0:59	0:50	1:53	1:34	1:47	2:48	2:32	2:37

表3 4～6歳幼児のテレビ視聴時間、ビデオ再生時間の推移 (時間:分)

	90年	91	92	93	96	97	98	99	2000	2001	2002
テレビ視聴時間*	2:09	2:19	2:19	2:19	2:21	2:28	2:38	2:29	2:38	2:32	2:41
ビデオ再生	-	0:19	0:19	0:17	0:24	0:32	-	-	0:26	-	0:30

*96年より衛星放送も調査

間未満と短い場合、幼児の視聴時間も1時間57分と2時間をきっている。

SHIRAIISHI Nobuko
NHK 放送文化研究所世論調査部

続いて、4～6歳についてこの10年のテレビの視聴時間の推移をみたものが表3である^{注2}。97年以降でみると大きな差はないが、90年と比べるとここ数年、20分以上視聴時間は伸びている。NHKが毎年6月に実施している「全国個人視聴率調査」によると、30代女性のテレビ視聴時間は、3時間30分(90年6月)から4時間24分(01年6月)^{注3}へと大きく増加している。幼児の母親の年代は、30代に集中している(78%)ことから、母親の視聴増の影響を受けて、幼児の場合も視聴時間が増加していると考えられる。なお、ビデオ再生の視聴時間も、10年前と比べるとやや増加している。

<テレビをよく見るのは朝と夕方から夜>

幼児の1日の視聴状況を30分ごとに追ってみると、テレビをよく見ているのは朝7、8時台と夕方4時～夜8時30分ころで、いずれも幼児向けの番組やアニメ番組が放送されている時間である。このように1日のなかで2つの大きな視聴のピークのある傾向は、10年前も今も変わらない。

午前、午後、夜間、1日といった時間帯区分ごとの視聴状況の年齢による違いをみたものが表4である。午後の時間帯では、年齢の低い子どもほど視聴率は高い。これに対し、アニメ番組の放送が多い夜間は年齢が高いほど視聴率は高くなっている。テレビを見る総量に差はな

表4 時間帯別視聴率(全局、平日平均)

	全体	2歳	3歳	4歳	5・6歳
午前	13.8%	14	14	14	12
午後	10.1	13	11	10	8
夜間	17.0	12	15	19	20
1日	13.6	13	14	14	13

いが、見る時間帯にはこのような年齢差がある。

<ポケモンからドラえもんへ>

テレビ全局のなかで、最もよく幼児に見られた番組はテレビ朝日のアニメ「ドラえもん」(47.0%)であった(表5)。「ドラえもん」は96～98年まで1位であったが、99年から2001年は「ポケットモンスター」が「ドラえもん」をおさえ、首位の座を維持していた。そして今回は「ドラえもん」が首位にもどっている。

この高位番組のオーダーは、年齢別に大きく様相が異なる(表6)。2～3歳児では「おかあさんといっしょ」「いないいないばあっ!」などスタジオ構成のいわゆる幼児向けの番組が目立つのに対し、4～6歳になると、「とっこハム太郎」「おジャ魔女どれみドッカーン!」のような小学生にも人気のある番組がよく見られている。番組に対する好みの、発達による違いが、きれいに現れている。

ところで教育テレビでは、朝と夕方の時間帯に幼児向けの番組を集中的に編成している。発達による理解力や好みの差、また生活実態の差(表7)などを考慮した番

表5 テレビ全局高位番組(放送時間10分以上)

曜日	放送時刻	局	番組名	視聴率
金	後7:00	朝日	ドラえもん	47.0%
日	後6:30	フジ	サザエさん	46.5
日	前8:00	朝日	仮面ライダー龍騎	41.2
水	前8:11	教育	# いないいないばあっ!	40.6
金	後7:30	朝日	あたしんち	39.2
金	後6:30	東京	とっこハム太郎	38.3
木	後7:00	東京	ポケットモンスター	37.8
日	前8:30	朝日	おジャ魔女どれみドッカーン!	37.0
日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	36.8
日	前7:30	朝日	忍風戦隊ハリケンジャー	35.7

#は帯番組で最も視聴率が高い曜日の数値、以下同様

表6 テレビ全局 年齢別高位10番組(放送時間10分以上)

2歳					3歳				
金	前8:11	教育	# いないいないばあっ!	45%	日	後6:30	フジ	サザエさん	43%
金	前8:31	教育	# おかあさんといっしょ	43	水	前8:11	教育	# いないいないばあっ!	42
金	前7:56	教育	# 英語であそぼ	40	火	前7:56	教育	# 英語であそぼ	39
木	後5:30	教育	# おじゃる丸	39	金	前8:31	教育	# おかあさんといっしょ	39
火	後5:15	教育	# ひとりできるもん!	38	金	後7:00	朝日	ドラえもん	39
火	後5:00	教育	# 英語であそぼ	36	日	前8:00	朝日	仮面ライダー龍騎	35
木	後5:40	教育	# ハッチポッチステーション	35	日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	32
日	後6:30	フジ	サザエさん	35	日	前7:30	朝日	忍風戦隊ハリケンジャー	31
火	後5:50	教育	# 忍たま乱太郎	33	金	後7:30	朝日	あたしんち	31
金	後7:00	朝日	ドラえもん	32	木	後7:00	東京	ポケットモンスター	30

4歳					5～6歳				
金	後7:00	朝日	ドラえもん	56%	金	後7:00	朝日	ドラえもん	55%
日	前8:00	朝日	仮面ライダー龍騎	49	日	後6:30	フジ	サザエさん	54
日	後6:30	フジ	サザエさん	49	木	後7:00	東京	ポケットモンスター	50
金	後7:30	朝日	あたしんち	47	金	後6:30	東京	とっこハム太郎	50
水	前8:11	教育	# いないいないばあっ!	46	日	前8:00	朝日	仮面ライダー龍騎	49
金	後6:30	東京	とっこハム太郎	45	日	後7:30	朝日	あたしんち	48
木	後7:00	東京	ポケットモンスター	45	日	前8:30	朝日	おジャ魔女どれみドッカーン	46
日	前8:30	朝日	おジャ魔女どれみドッカーン	44	日	前7:30	朝日	忍風戦隊ハリケンジャー	46
日	前7:30	朝日	忍風戦隊ハリケンジャー	40	火	後7:00	東京	ポケットモンスターアソール	45
火	後7:00	東京	ポケットモンスターアソール	39	日	後6:00	フジ	ちびまる子ちゃん	42

組を放送したところ、表8のように教育テレビは幼児に非常によく見られるチャンネルとなった。具体的には「いないいないばあっ!」(40.6%)、「英語であそぼ」(34.6%)、「おかあさんといっしょ」(33.5%)などの番組がよく見られている(表9)。

2 ビデオ利用状況

<多い幼児のビデオ接触>

続いて幼児のビデオ利用の状況についてみてみよう。調査をした1週間に少しでもビデオを見た幼児の割合(週間接触者率)は全体の78%、利用しなかった幼児も含めた平均利用時間は、1日あたり40分である。97年は38分であったから、ビデオ利用に変化はない。ただし、別の調査の結果であるが、小学生の利用の場合は34%(92年調べ)であったから、幼児の利用の高さが伺えよう。年齢別には、2歳83%、3歳85%、4歳77%、5・6歳69%で、ビデオは3歳以下の接触者が多い。

表7 夕方の行動

	夕方4時台			夕方5時台			夕方6時台		
	家でテレビ	家で遊ぶ	外で遊ぶ	家でテレビ	家で遊ぶ	外で遊ぶ	家でテレビ	家で遊ぶ	外で遊ぶ
2歳	49	29	26	56	35	18	47	33	28
3歳	40	38	36	58	41	21	42	40	29
4歳	40	34	31	55	38	24	54	42	27
5・6歳	48	43	22	52	47	28	54	45	29

(01年6月 幼児視聴率調査)

時間帯別、年齢別のビデオ利用状況をみたものが表10、11である。利用時間からも2、3歳の利用が活発であることがみてとれる。30分ごとのビデオ利用状況をみると、平日の夕方5時から6時台、夜8時台、土日の午前中といった時間で比較的利用は多い。これらの時間は低年齢の幼児向けの放送が少ない時間である。幼児は見たい番組が見つからないと、他の番組でがまんせず、お気に入りのビデオソフトを見て楽しんでいるようである。

表8 局別平均視聴率(週平均)

年	局別平均視聴率(週平均)																				
	総合			教育			NTV			TBS			フジ			朝日			東京		
	00	01	02	00	01	02	00	01	02	00	01	02	00	01	02	00	01	02	00	01	02
午前	0.6	0.7	0.5	6.7	6.6	6.0	0.7	0.8	0.6	0.5	0.6	0.6	1.0	1.2	1.2	1.5	1.8	1.7	2.3	2.3	3.0
午後	0.3	0.3	0.3	5.9	6.4	5.5	0.7	0.6	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8	1.0	0.5	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
夜間	0.6	0.6	1.1	1.9	1.5	1.3	2.6	2.3	2.6	2.0	2.0	2.0	3.3	3.8	3.6	1.9	1.8	2.0	5.7	4.0	4.0
一日	0.5	0.5	0.6	4.9	4.9	4.4	1.3	1.2	1.3	1.1	1.1	1.1	1.7	1.9	1.7	1.2	1.3	1.3	2.7	2.1	2.4

ちなみに表12は、お気に入りのビデオソフトの名前を自由にあげてもらったものである。低年齢の幼児を中心に「しまじろう」やディズニー映画、宮崎アニメなどが上位にあがっている。

3 テレビゲーム利用状況

<テレビゲームは4歳ころから>

それでは幼児のテレビゲーム利用については、どの程度進んでいるのであろうか。昨年の調査結果^{注4}からみると、調査をした1週間に少しでもテレビゲーム(ゲームボーイなどの携帯ゲームを含む)を利用した幼児の割合(週間接触者率)は全体の20%であった。利用者の平均利用時間は、1日あたり40分である。

表9 教育テレビの高位番組(放送時間10分以上)

曜日	放送時刻	番組名	視聴率
水	前8:11	#いないいないばあっ!	40.6%
水	前7:56	#英語であそぼ	34.6
金	前8:31	#おかあさんといっしょ	33.5
木	後5:50	#忍たま乱太郎	30.1
木	後5:40	#ハッチポッチステーション	30.0
木	後5:30	#おじゃる丸	29.9
月	後5:15	#ひとりのできるもん!	29.8
月	後5:00	#英語であそぼ	29.6
月	後4:21	#おかあさんといっしょ	19.7
水	前7:46	#おじゃる丸	16.4

年齢別にみたテレビゲーム週間接触者率は、2歳4%、3歳12%、4歳23%、5・6歳34%で、ビデオとは反対に、年齢が高いほど接触者は多い。逆に3歳以下では非常に少ない。

表10 ビデオ利用時間(週平均、男女年層別)

	全体	男女		2歳	3歳	4歳	5・6歳
		男	女				
97年	38分	41	33	44	43	34	30
02年	40	42	36	57	49	31	30

表11 時間帯別ビデオ利用率(週平均)

	時間帯別ビデオ利用率(週平均)				
	全体	2歳	3歳	4歳	5・6歳
午前	2.5	5	3	2	2
午後	4.1	5	5	4	4
夜間	4.0	6	5	3	3
1日	3.5	5	4	3	3

表 12 お気に入りのビデオ (自由記述をまとめたもの)

りぼん

男2歳	しまじろう(10), 機関車トーマス(6), アンパンマン(5), おかあさんといっしょ, ドラえもん, ウルトラマン(4),
男3歳	しまじろう(24), アンパンマン(16), 機関車トーマス(14) ウルトラマン(11), ディズニー(8)
男4歳	しまじろう(15), ウルトラマン(14), 機関車トーマス(13), ディズニー(8)
男5・6歳	ウルトラマン(18), となりのトトロ(10), ドラえもん(10), 仮面ライダー(8), しまじろう(8)
女2歳	しまじろう(20), アンパンマン(16), おかあさんといっしょ, ディズニー, となりのトトロ(7),
女3歳	しまじろう(23), アンパンマン(10), とっとこハム太郎(10) ディズニー(9), ドラえもん(8)
女4歳	しまじろう(14), ディズニー(10), ハム太郎(10), となりのトトロ(6)
女5・6歳	となりのトトロ(14), ディズニー(11), しまじろう(9), アンパンマン(9), ドラえもん(8)

そこで、4歳以上に限定し、利用の実態をもう少し紹介しよう。4歳以上の幼児のテレビゲーム利用時間(利用しなかった幼児も含めた)は、週平均1日あたり10分である(表13)。男女別には男子の利用が長いのが、テレビゲーム利用の特徴である。週間接触者率は男子、5・6歳で高い。そしてこれまで紹介してきたテレビゲーム利用の結果や傾向は、93年の調査と基本的に変わっていない。

表 13 テレビゲーム利用時間(週平均)

	全体	男	女	4歳	5・6歳	兄弟有	兄弟無
93年	10分	19	3	4	15	13	7
01年	10	15	5	8	11	10	9

(01年6月 幼児視聴率調査)

<テレビゲームで遊ぶのは夕方4時から6時>

時間帯別にテレビゲーム利用状況をみると(表14)、1日のなかでは午後の利用が比較的多く、夕方4時から6時に集中している。また、所有しているテレビゲームソフトの本数は「1～5本」である幼児が最も多い(表15)。

テレビゲームをはじめた年齢についてもたずねたが、表16にみるように「4歳～4歳6か月未満」という幼児の割合が多くなっている。いずれにしても、テレビゲームの利用状況が、この10年ですすんでいる傾向はあまりみられない。

以上テレビとビデオ、テレビゲームといった、幼児の映像メディアとのつきあいの現状を紹介した。もちろん幼児の場合、このほかにも本、CDなどの利用もある。ただし、テレビがごく早い時期から、自然に彼らの生活のなかに位置づいているのも確かである。

ところで、幼児とテレビ、あるいはビデオ、テレビゲームといったメディアとのかかわりを考える際に、最も大きな要因を占めるのは、当然のことながら母親を中心とする保護者のメディア観である。幼児の母親の年齢を

表 14 時間帯別テレビゲーム利用率(週平均)

	全体	4歳	5・6歳
午前	0.4%	0	1
午後	1.5	1	2
夜間	0.8	1	1
1日	0.9	1	1

(01年6月 幼児視聴率調査)

表15 所有しているテレビゲームソフトの本数

	93年	01年
0本	—	12.5
1～5本	44.9	62.5
6～10本	21.5	16.2
11本以上	23.3	8.1

全体=107人 136人

(01年6月 幼児視聴率調査)

表16 テレビゲームをはじめた年齢

	93年	01年
3歳未満	4.7%	4.4
3歳～3歳6か月未満	11.2	16.2
3歳6か月～4歳未満	15.9	10.3
4歳～4歳6か月未満	8.4	30.1
4歳6か月～5歳未満	29.0	13.2
5歳～5歳6か月未満	21.5	21.3
5歳6か月以上	9.3	4.4

全体=107人 136人

(01年6月 幼児視聴率調査)

みると、20代後半から30代がほとんどである。この年代は物つく前からテレビに出会った、いわば『テレビ世代』であり、どちらかという活字よりは映像を好む年代である^{注5}。母親自身が“テレビっ子”なのである。

したがって、子どもとテレビの関係を考える際に、母親の間には、いつかのようなテレビの悪影響ばかりを気にするような風潮はみられない。むしろ、新しい遊びや子どもの健康情報などをテレビから積極的に入手したり、子どもの情操教育にテレビの映像を利用するなど、子育ての過程でテレビを上手に利用しようとする姿勢がうかがえる^{注6}。また、幼児のテレビ利用に対し、「テレビが子どもの知識を豊かにする」(73%)など肯定的なとらえ方をする人も多い。

現代において幼児のテレビ視聴を考える際には、このような母親のメディア観や母親自身のテレビ視聴の実態をきちんと把握し、その現状を考慮しつつ、親子でテレビを上手に利用するための「環境づくり」が必要である。NHKではこれまでも、親子で楽しめる番組や、現実の生活では体験できない(例 あさがおの開花、せみの成長など)テレビの特性を生かした情報を幼児に伝え、その成長を助ける番組を制作している。母親に対し、子育てに対する情報やネットワークを提供することも試みている。

その上で今後は、テレビの情報を母親自身が上手に利用するための家庭のメディア教育が必要と考える。現代のような情報社会においては、豊富な情報のなかから、どれが正しくてどれが自分にとって必要な情報であるかということを選別できる「眼」を持つことが大切だからである。そしてその「選択眼」を持つ、自主性のある子どもたちを育成することが、われわれおとなにとっての緊急課題と考える。

注1)「低年齢で多いビデオ利用」(NHK「放送研究と調査」2002年11月号)

<2002年調査の概要>

調査日 2002年5月27日(月)～6月2日(日)
調査方法 郵送法(15分単位日記式、保護者による代理記入)
母集団 東京30キ口圏 2～6歳の幼児
調査相手 層化2段無作為抽出
100地点×10人=1000人
有効数(率) 7日間の平均615人(61.5%)

注2) 2, 3歳の幼児については、96年より調査

注3) 2002年6月は調査期間中にワールドカップサッカーの放送が3日入り、視聴時間に影響があったため、2001年の結果を引用した

注4)「この10年で伸びた幼児のテレビ視聴時間」(NHK「放送研究と調査」2001年10月号)

注5)「テレビ世代の現在」(NHK「放送研究と調査」97年9,10月号)

注6)「幼児と母親とテレビ」(NHK「放送研究と調査」95年12月号)